

国立研究開発法人国立環境研究所が平成 29 年 4 月に当センター内に設置した琵琶湖分室は、これまでの湖沼の底泥環境や生態系の解析評価にかかる先駆的な研究実績や知識を基に、琵琶湖流域生態系の保全再生に向け、連携研究を推進します。

在来魚の生息状況に関する調査研究

【研究概要】

琵琶湖生態系を代表する生物として在来魚に注目し、各種について適切な保全・管理・再生手法を提案するため、それぞれの種の繁殖や回遊の現状解明に挑みます。また、研究の基礎となる生態系の評価をより効率的に行うため、最新の技術を応用したモニタリング手法の検討を行います。

【現状・課題】

- ・琵琶湖では、多くの在来魚種が減少し現在も回復していない。
- ・産卵場である沿岸や内陸水域の環境が悪化し、琵琶湖からのアクセスも阻害されている。
- ・生態系・環境評価のための効率的なモニタリング手法が整備されていない。

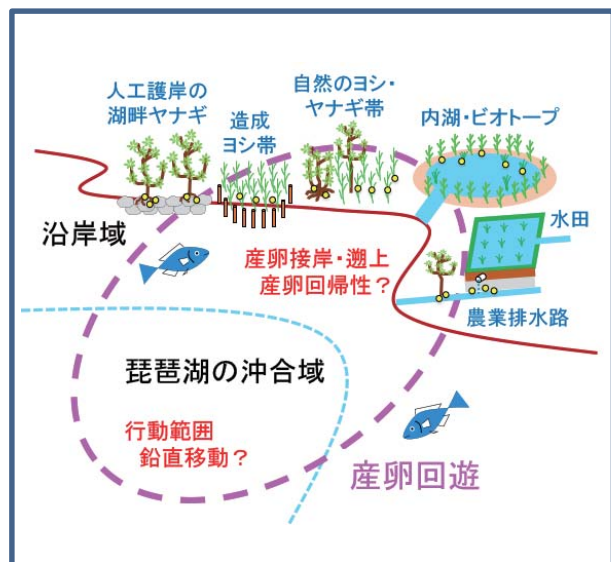
【課題解決に向けて】

1 在来魚の生息状況に関する調査研究

- ・卵の出現状況の調査や親魚の移動・回帰調査により、繁殖・遡上の現状について明らかにする。
- ・様々な生息地での採集を通して、多様な種・生活ステージにおける在来魚の分布について把握する。

2 生態系評価のためのモニタリング手法の開発

- ・環境 DNA 解析や遠隔観測など最新の技術を活用した生態系評価のモニタリング手法を開発する。



- ・在来魚の回復に向けた効果的な産卵・生息場所の保全・再生策を提案する。
- ・生態系評価のための効率的なモニタリング手法を開発する。